



社内緊急コミュニケーションアプリ 展開手法

COVID19

2020年4月版

インフォシア株式会社
ソリューションアーキテクト

北端 智

免責事項

MICROSOFT CONFIDENTIAL

本資料は情報提供のみを目的としており、本資料に記載されている情報は、本資料作成時点でのマイクロソフトの見解を示したものです。状況等の変化により、内容は変更される場合があります。本資料に表記されている内容（提示されている条件等を含みます）は、貴社との有効な契約を通じて決定されます。それまでは、正式に確定するものではありません。従って、本資料の記載内容とは異なる場合があります。マイクロソフトは、本資料の情報に対して明示的、黙示的または法的な、いかなる保証も行いません。

© 2020 Microsoft Corporation. All rights reserved.

本セミナーの目標

COVID-19 社内緊急コミュニケーション
アプリの展開と構成を理解する
環境の展開方法を理解する

アジェンダ

- テンプレート開発の目的
 - 米国マイクロソフト開発のテンプレートとの違い
 - なぜCDSを選択するのか？
 - Power Appsの概要
- 本テンプレートを使用するのに必要な環境とライセンス
- アプリの展開手法 –環境作成と構成
 - Power Appsで検証環境を作成する
 - ソリューションとは
 - キャンバスアプリのインポート
- セキュリティ
- アプリのカスタマイズについて

1. テンプレートト開発の目的



テンプレートが作成された目的

- 米国マイクロソフト コーポレーションで作成
 - バージョン1 SharePointをデータソースで作成
 - バージョン2 前バージョンを踏襲しデザインの変更

- 組織が社員に対し迅速で正確な情報共有を実現する
 - 会社のニュースや緊急連絡先
 - 指定したRSS Feedの表示

日本向けにカスタマイズ

- 日本版はCDSをデータストレージに
 - ・ オリジナル版はSharePoint
 - ・ 情報発信目的であればオリジナル版、日本版の使い分け
- 日本版は日報機能を追加
 - ・ 勤怠メール報告
 - ・ 日報作成・編集
 - ・ より日本の労働事情に合わせた内容にカスタマイズ
- さらに、アプリ展開時に個社向けのカスタマイズが可能

なぜCDSを検討するのか？

- Power Appsの有償ライセンスで使用可能
- 企業の永続的なデータベースとして使用可能
 - 大量のデータを扱えるキャパシティー
 - 複雑なセキュリティ要件を満たせるセキュリティモデル
 - データ統合機能の提供
- クラウドで提供されるデータベース（サービス）
 - オープンで拡張性のあるデータベース（含むWeb API）
 - Common Data Modelの採用（オープンソース）
 - Microsoft 365との高い親和性
 - リレーショナルデータベースモデルを採用
 - データベーステーブル+入力フォーム+表示ビューなど必要なものがオールインワンで提供

なぜCDSを検討するのか？ -2

- 日々生み出されている データ が組織にとって有用ではない場合が多く見られる

日本経済新聞

トップ 朝刊・夕刊 My

データの世紀 フォローする

AI、データ不足6割 「動かない頭脳」 続出の恐れ

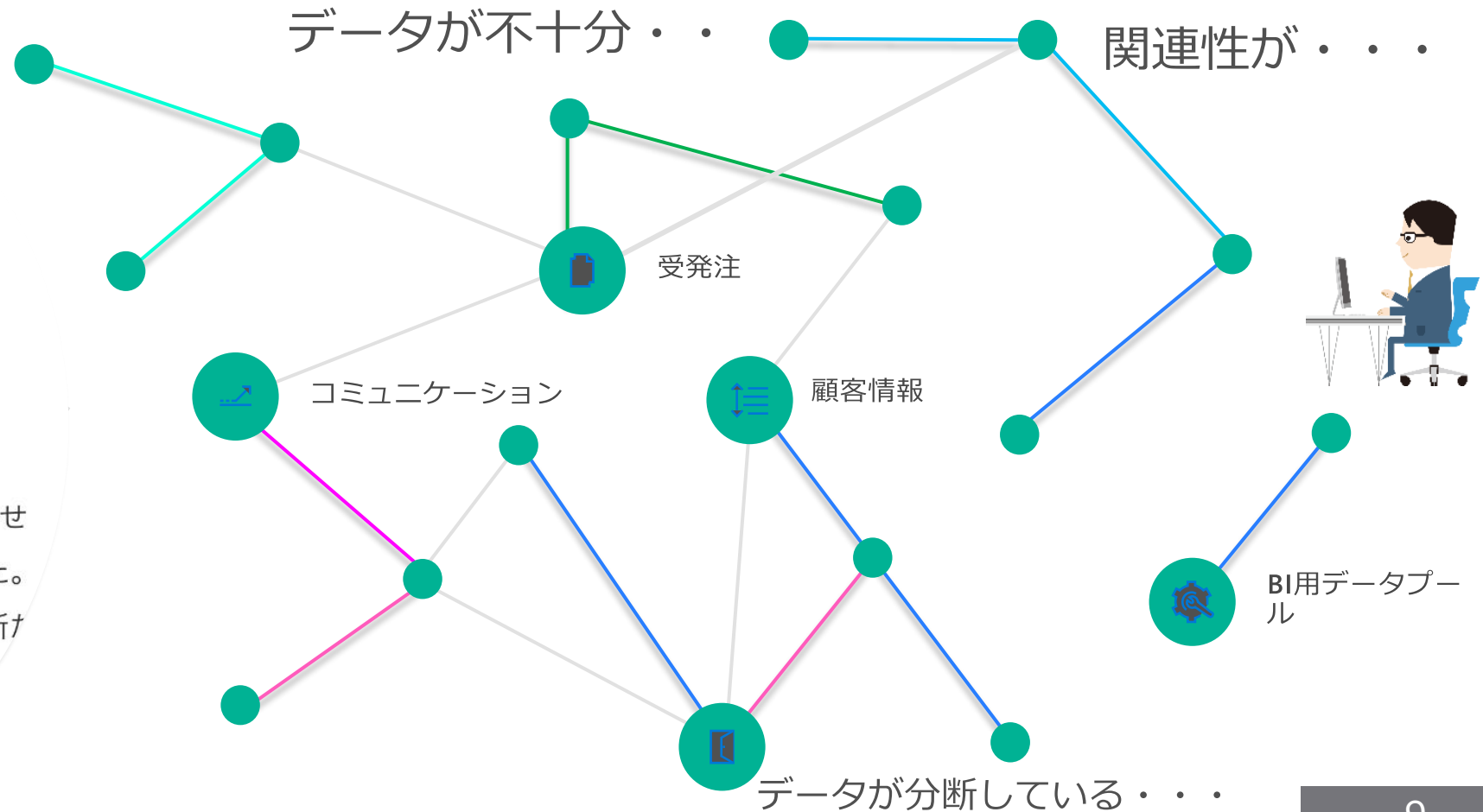
大手113社の活用状況、日経と「xTECH」が調査

2018年9月30日 2:00 [有料会員限定]

日本の主要企業の6割が人工知能（AI）運用に欠かせないデータ活用で課題を抱えていることが分かった。製品やサービスの開発、事業開拓などAIの用途は新たな分野に広がりつつある。だが必要なデータが不足していたり、データ形式が不ぞろいで使えな

AIの導入に戸惑う事例も多い。欧米を

※出展：日本経済新聞オンライン版9月30日 見出しのプレビュー



データが分散するとなぜ問題なのか？

- 使いたいときにすぐに使えるデータがない
 - 例：DMを送信したいが顧客リストは基幹システムの中で簡単に参照できない
 - 参照できても、メールを送信するシステムと連携しない・・・など
- 何をするにも工数がかかる、時間がかかる
- アプリケーションごとに異なるデータアクセス手法
- 最新のデータを入手しにくい！
 - ・ 分散している全てのデータを最新状態に保つのは難しい



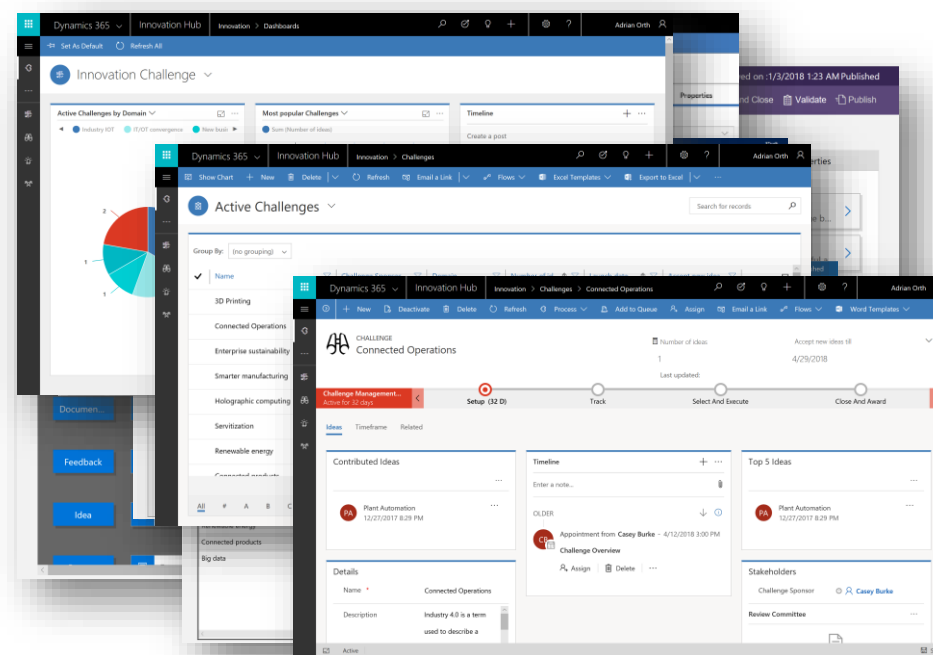
PowerApps の概要

□ 最も新しい “アプリケーション作成” プラットフォーム



キャンバスアプリ

ユーザーが直感的に作成できるアプリケーション。
処理しなければならないタスクや役割を考慮し作成するグラフィカルなアプリケーション

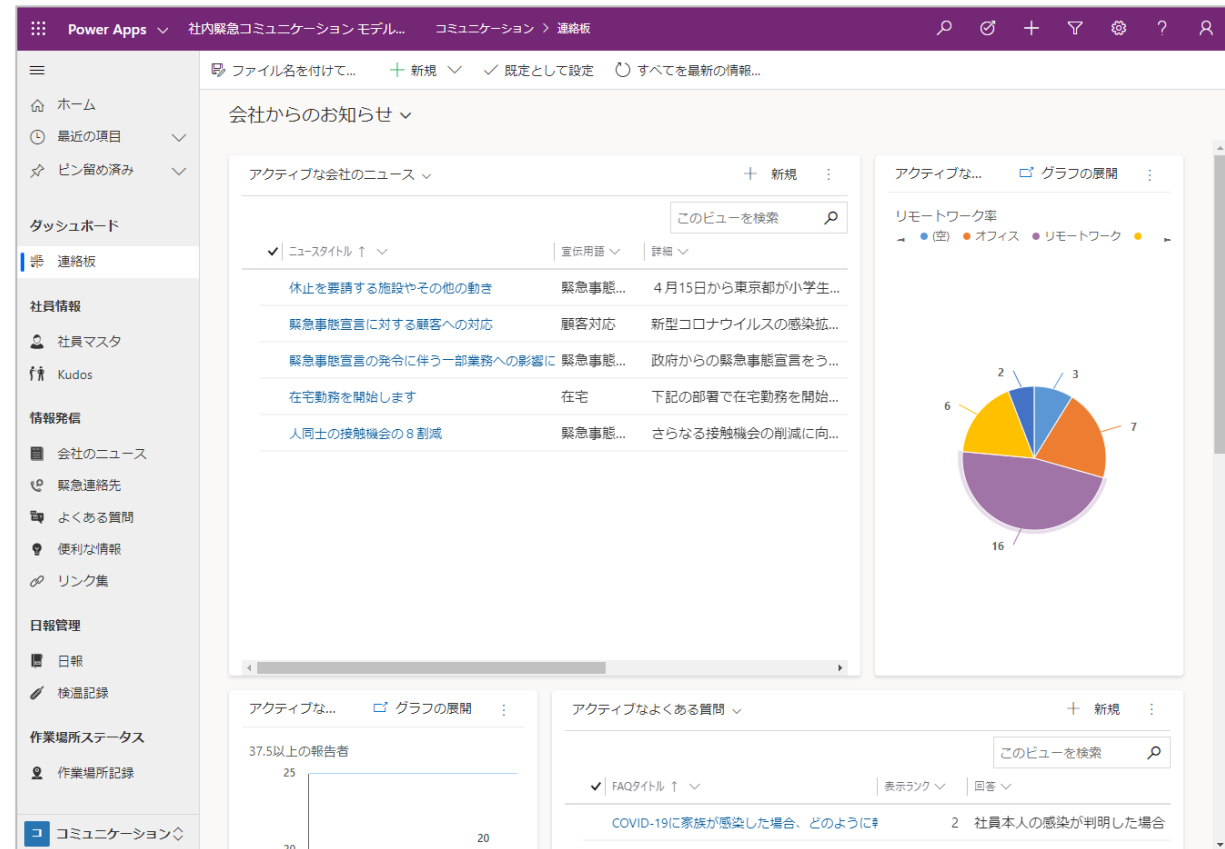


モデル駆動型アプリ

データモデル、ビジネスプロセス、統一インターフェースを利用したアプリケーション
Dynamics 365 をプラットフォームとする

本テンプレートの構成

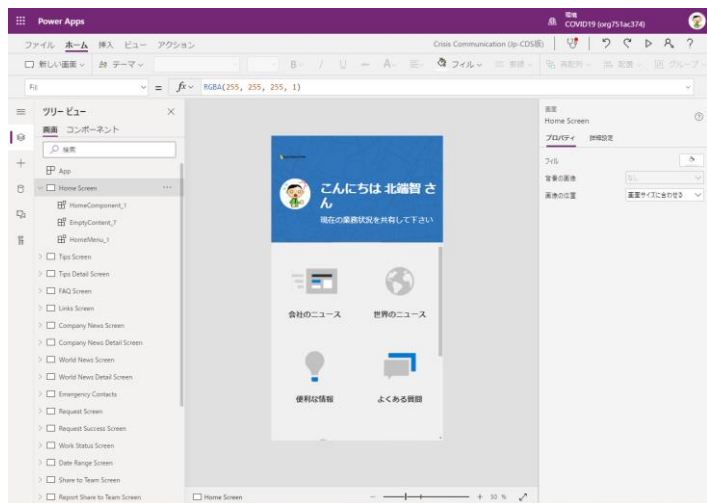
- ユーザーはキャンバスアプリ
- 管理者はモデル駆動アプリ



キャンバスアプリの動作プラットフォーム

Webブラウザ

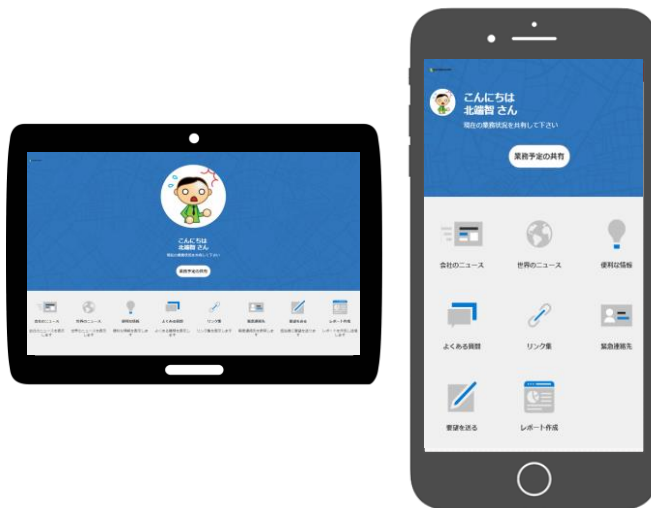
EdgeやChromeなどのモダンブラウザ上



PC, タブレット

モバイル専用アプリ上

iOS, Androidで提供されている
専用アプリ上



タブレット、スマートフォン

その他

UWPアプリ
(Windows Storeアプリ)



Microsoft
Teams
(タブ内で展開)



SharePoint
Webパーツ
(現在プレビューのWeb
パーツ)



2. ライセンス

3. アプリの展開手法



必要なライセンス

- Power Apps有償ライセンス
 - アプリ単位
 - 無制限のアプリケーション

- （必要に応じて）Power BIライセンス

環境

- （ライセンスによるが） CDSに複数の環境を作成し運用できる
 - 目的別に環境を分ける
 - 試用版
 - 運用
 - サンドボックス

ソリューションとは

□ 「ソリューション」はCDSのカスタマイズを作成、パッケージ化、展開、管理するために使用

■ 目的など関連した変更毎に個別のソリューションを作成

- 変更のあるコンポーネントはセットにして個別のソリューションにまとめることを推奨
- “既定のソリューション”を使用すると、変更したコンポーネントと目的の対応付けが見えないため、管理が困難

■ 関連した変更を1つのソリューションにまとめることで、一度に展開が可能

- セットにまとめることにより、エクスポートしたソリューションzipファイルのサイズが小さくなる
- エクスポートしたソリューションファイルは、変更管理のために保管しておくのが望ましい

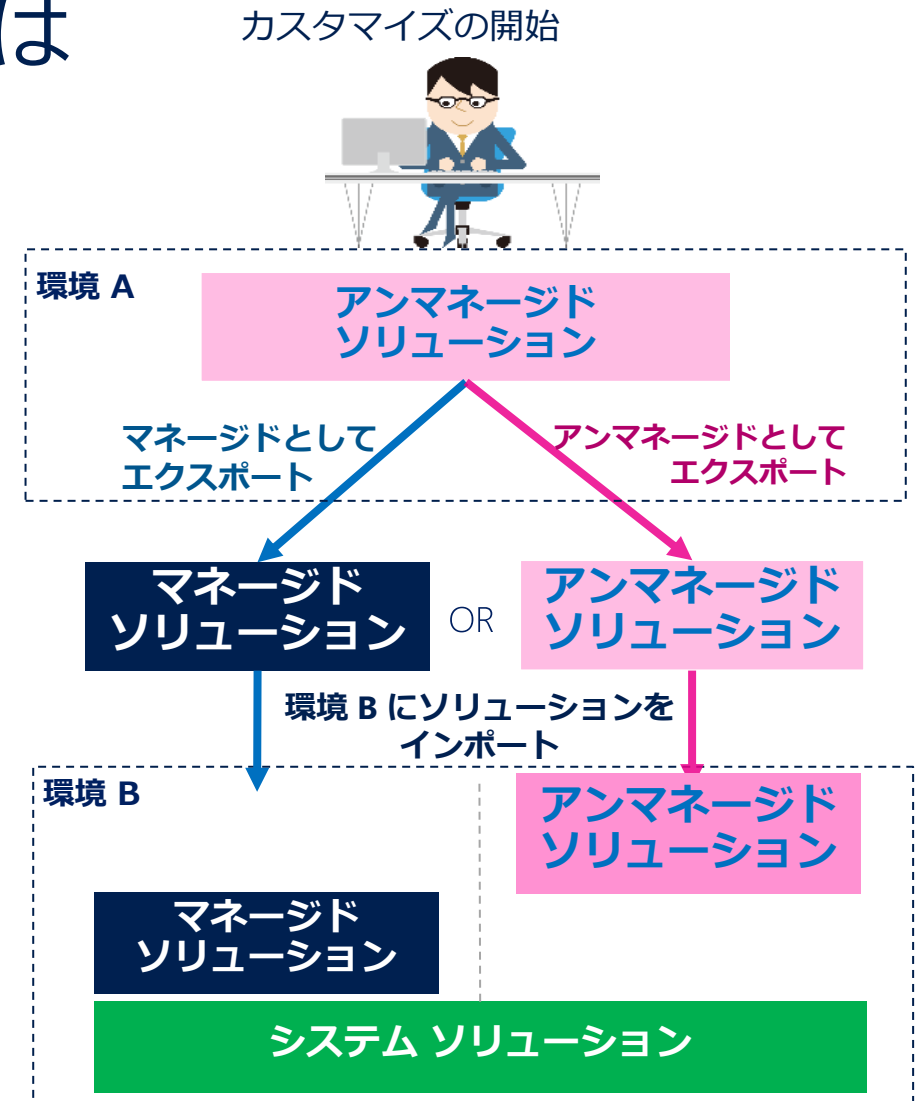
■ ソリューション=テンプレート

- マネージドソリューションを“テンプレート”として展開、使用



マネージドおよびアンマネージド ソリューションの作成

- 新規に作成したソリューションはアンマネージド
- エクスポート時に種類を指定
 - マネージドとしてエクスポート
 - アンマネージドとしてエクスポート
- 別システムにインポート
 - 元々のシステム ソリューションに上書き
 - マネージド ソリューションの削除
 - ・ ソリューションによりインポートされたコンポーネントのカスタマイズも削除
 - アンマネージド ソリューションの削除
 - ・ ソリューションによりインポートされたコンポーネントのカスタマイズは残る



キャンバスアプリのインポート

- 管理者としてPowerAppsサイトで作業
 - インポート作業を行ったユーザーがアプリの所有者となる
 - 共同所有者を追加可能
 - （※ただし共同所有者はアプリの削除不可）



デモ

-環境作成からソリューションの
インストールまで



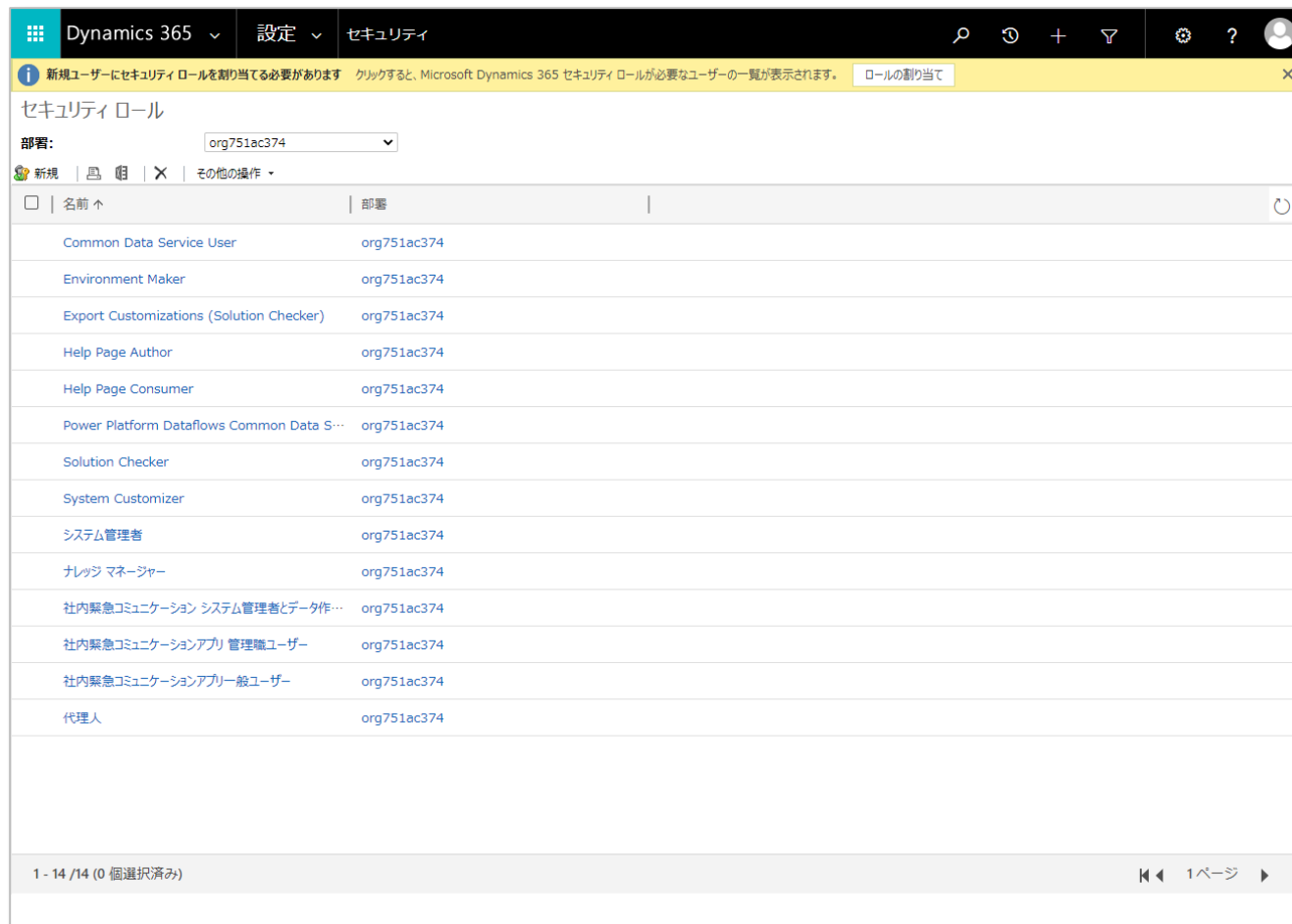
4. セキュリティ



本テンプレートで準備しているセキュリティ

□ 3つのセキュリティロール

- 一般利用者
- 管理職
- 管理者



Dynamics 365 | 設定 | セキュリティ

新規ユーザーにセキュリティロールを割り当てる必要があります。クリックすると、Microsoft Dynamics 365 セキュリティロールが必要なユーザーの一覧が表示されます。 | ロールの割り当て

セキュリティロール

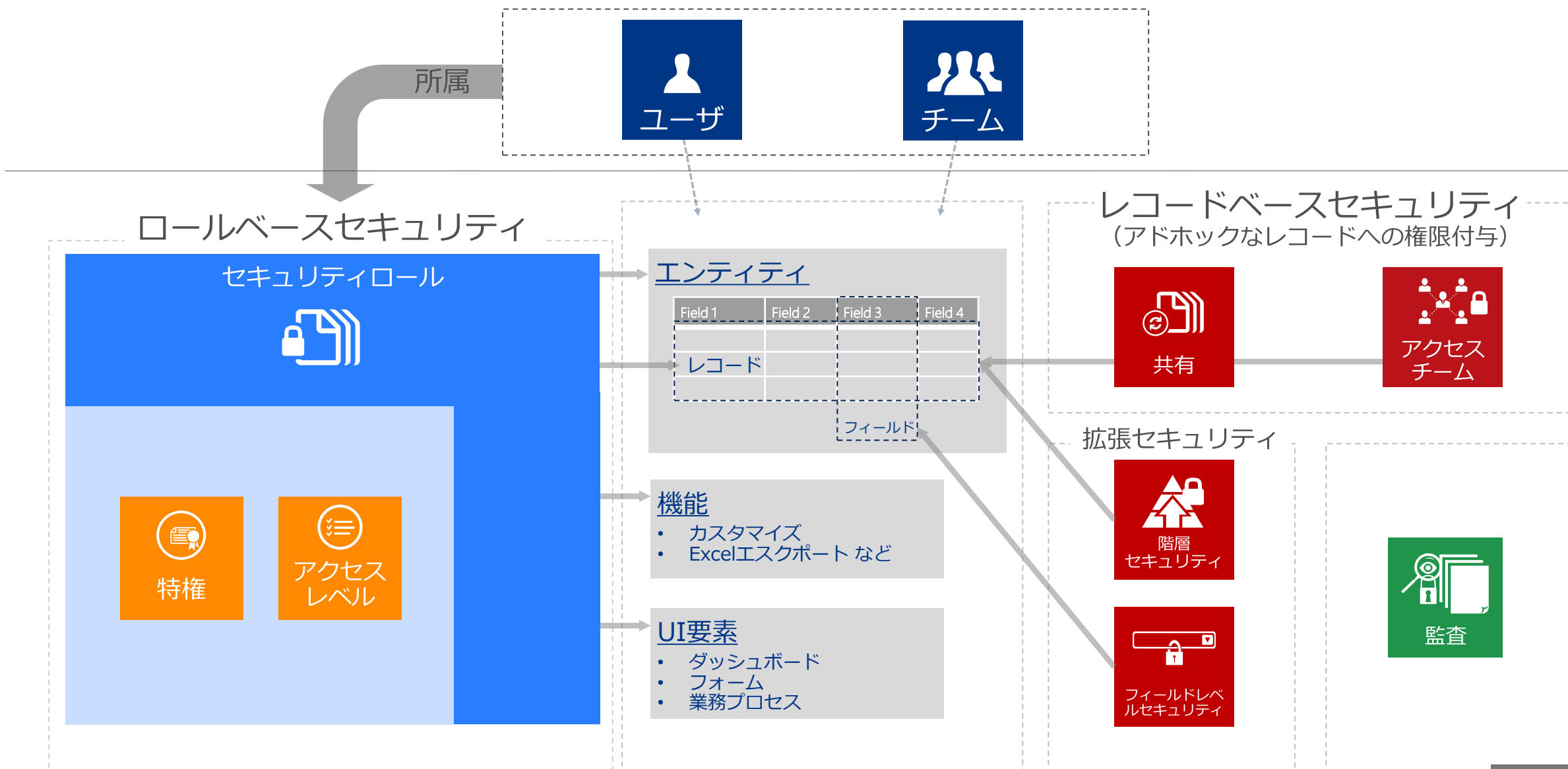
部署: org751ac374

新規 | 一覧 | X | その他の操作

名前 ↑	部署
Common Data Service User	org751ac374
Environment Maker	org751ac374
Export Customizations (Solution Checker)	org751ac374
Help Page Author	org751ac374
Help Page Consumer	org751ac374
Power Platform Dataflows Common Data S...	org751ac374
Solution Checker	org751ac374
System Customizer	org751ac374
システム管理者	org751ac374
ナレッジ マネージャー	org751ac374
社内緊急コミュニケーション システム管理者とデータ作...	org751ac374
社内緊急コミュニケーションアプリ 管理職ユーザー	org751ac374
社内緊急コミュニケーションアプリ一般ユーザー	org751ac374
代理人	org751ac374

1 - 14 / 14 (0 個選択済み) | 1 ページ

CDSセキュリティの概念

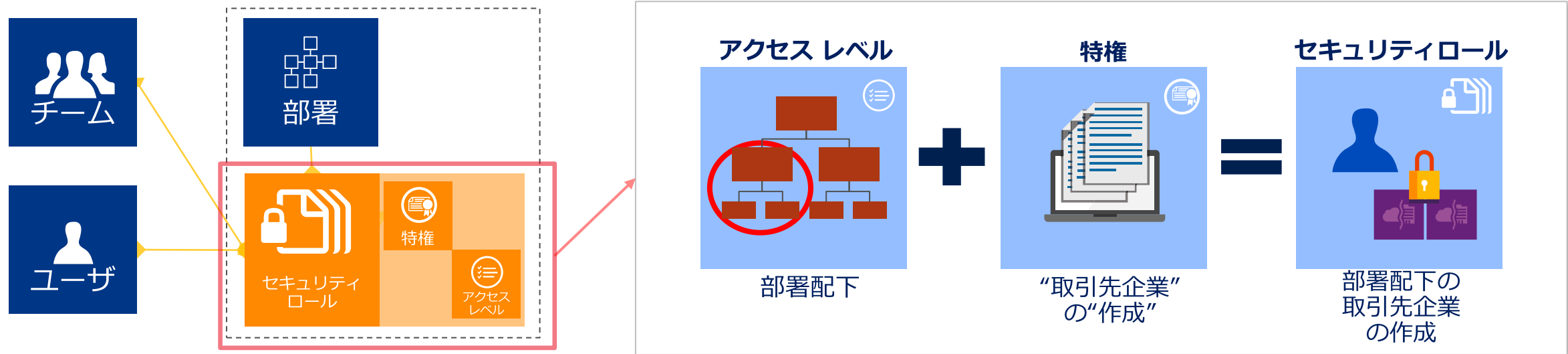


セキュリティロールとは

□ ユーザやチームが持つアクセス許可を定義

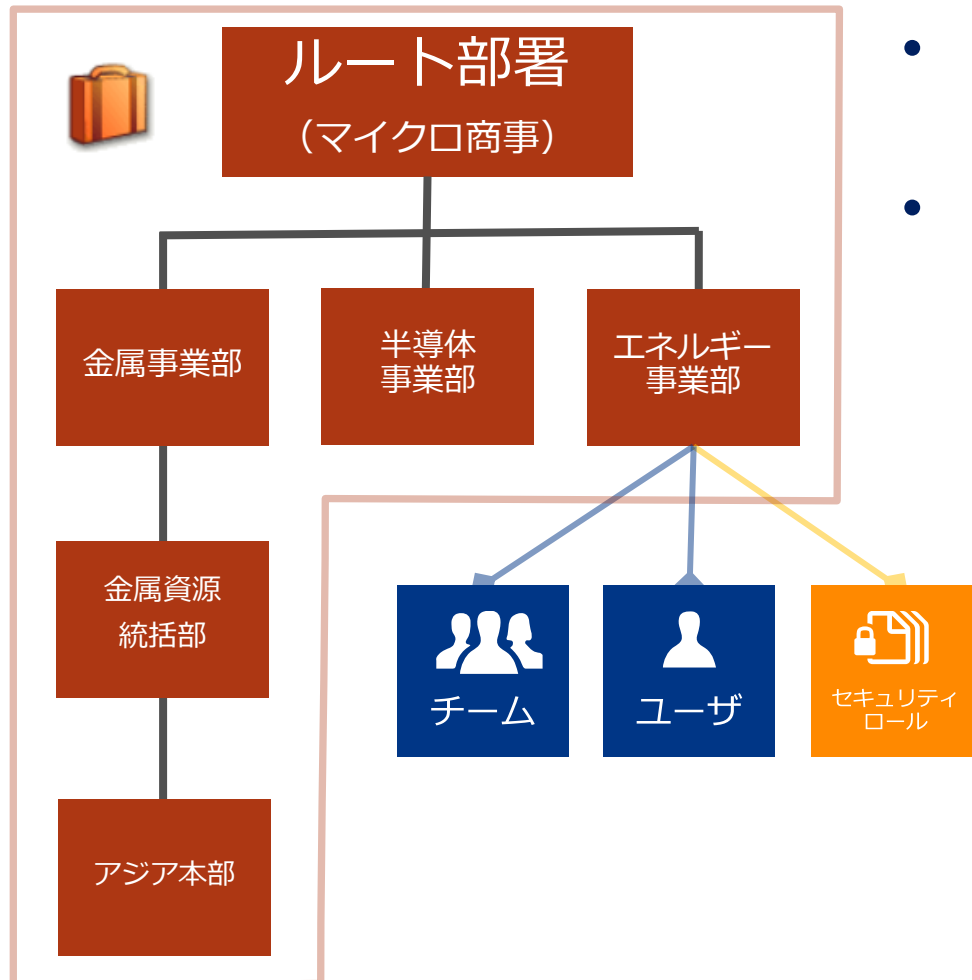
- 特権（実行できる操作）とアクセスレベル（アクセス許可の範囲）によりアクセス許可は定義
- すべてのユーザは最低1つのセキュリティロールを割り当てる必要あり

□ セキュリティロール≡セキュリティグループ



部署とは

□ セキュリティの論理的境界



- 最初の部署は『ルート』部署 = 組織名
 - 組織が展開されたときに作成され、組織と同じ名前を付与
- 上位部署は一つだけ、下位部署は複数
 - 組織図と同様だが、自分の組織図を真似する必要はない。
 - セキュリティ要件を満たすのに必要な部署のみを作成すればよい。

ルート部署

- 名前の変更は可能
- 無効や削除は不可
- 上位部署を持つように移動は不可

下位部署

- 名前の変更は可能
- 無効や削除は可能
- 上位部署を持つように移動は可能

セキュリティロール：複数ロールの影響

- ユーザーは**OR条件**で全てのロールの全ての権限を得る

		読み込み	書き込み	割り当て
セキュリティロール： サポート担当	取引先企業	●	○	○
	営業案件	○	○	○
	サポート案件	○	○	○
セキュリティロール： 営業担当	取引先企業	○	○	○
	営業案件	○	○	○
	サポート案件	○	○	○
事実上のアクセス許可	取引先企業	●	○	○
	営業案件	○	○	○
	サポート案件	○	○	○

5. カスタマイズ



キャンバスアプリ、モデル駆動共にカスタマイズ可

□ キャンバスアプリ

- アプリ起動時にメニューや変数の設定
- アプリ内はコンポーネントで実装
- レスポンシブデザイン

□ モデル駆動型アプリ

- 入力フォーム
- ビュー
- その他すべての項目について変更可能
- （※アンマネージド ソリューションの場合）

デモ

-アプリケーション内容の説明



ご視聴いただき
ありがとうございました



